

淑女検定

☑ チャレンジテーマ

水墨画

墨と水の濃淡だけで表現する水墨画。白黒なのに「色を感じる」と言われている。静寂の中、硯（すずり）に向かって墨をすれば、自然と背筋もピンとなり、集中力と感性が研ぎ澄まされていく。

問題 1

水墨画は墨が命。墨はただの「黒」ではない。よく使われるのは次のうちどれ？

- A. 青墨
- B. 赤墨
- C. 墨汁
- D. イカ墨



問題 2

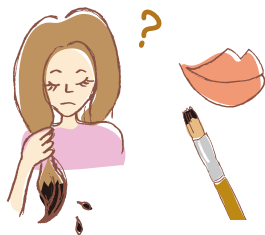
水墨画の描き方として合っているものは次のうちどれ？

- A. じっくりにじませながら
- B. 一気に一息で
- C. 目を閉じて
- D. 下書きをしてから

問題 3

専用筆で描くのが基本だが、変わったアイテムを使うことも。二つ選んで。

- A. 紙
- B. 髪
- C. 布
- D. 紅筆



SBS学苑
静岡校

今月の
先生



【水墨画で年賀状】講師

南條 亜紀子 なんじょう あきこ
(SBS学苑 講師)

墨の濃淡、ぼかし方でさまざまな表現をする水墨画。年齢に関係なく始められ、長く続けられるのが魅力。

SBS学苑静岡校
INFORMATION

11/27(日) 13:30~15:00

水墨画で年賀状

受講料 / 2,160円(教材費別途)
 持ち物 / 筆記用具
 講師 / 南條亜紀子(SBS学苑 講師)
 水墨画が初めてという方でも、その人らしい年賀状が描けるようにやさしく指導します。
 【お問い合わせ・お申し込み】
 Tel.054-282-1191

正解 & 解説

問題 1

正解 A

水墨画で一番よく使われるのは青墨(せいぼく)。黒色だが水に混ざるとわずかに青みがかった澄んだ色に。枯れ枝など枯淡な表現をする時には、品良く優しさをもたらす茶墨(ちゃぼく)も使われる。硯と墨は相性があり、相性がいいととても滑らかで心地よくすることができる。水墨画では、高級なにかわを使った墨で描くと、線質や色の表現に深みが増し無限になる。年月がたつと墨色がより生きてくる。

問題 2

正解 B

心を落ち着かせ、構図を決めたらためらわずに一気呵成(かせい)に描く。下書きはしない。「描くときはぶっつけ本番。今でもいい紙に描く時はドキドキします」と水墨画に向き合う南條先生。作品に取り掛かる前に墨をすると、その香りも手伝って、次第に集中力が高まっていく。描く前に円や線を描いて精神のバランスや色を整える。構図で大事なのは余白。水墨画は余白に美が生けるといふ。

問題 3

正解 A・C

水墨画では書の筆は使わない。根元から筆全体を使うため、イタチやタヌキなどの毛でできた硬めの筆を用いる。ほとんどが一般的な形の筆を使うが、連結した三連筆や大きな刷毛など種類は豊富。時にはくしゃくしゃにした紙や布で描くと、思いがけない表現ができることも。年賀状、のし、祝儀袋…と意外と筆を執る機会はあるもの。来年の干支「酉」を大人の遊び心たっぷりに描いてみては。